

華果成就御書

弘安元年四月 五七歳

其の後なに事もうちたへ申し承らず候。さては建治の^{ころ}比、故道善房聖人のために二札かきつかはし奉り候を、山高き森にてよませ給ひて候よし悦び入って候。たとへば根ふかきときんば枝葉かれず、源に水あれば流れかはかず。火はたき^欠かくればた^絶へぬ。草木は大地なくして生長する事あるべからず。日蓮法華經の行者となつて、善惡につけて日蓮房日蓮房とうたはるゝ此の御恩、さながら故師匠道善房の故にあらずや。日蓮は草木の如く、師匠は大地の如し。

彼の地涌の菩薩の上首四人にてまします。一名上行乃至四名安立行菩薩云云。末法には上行出世し給は^ず、安立行菩薩も出現せさせ給ふべきか。さればいねは華果成就すれども、必ず米の精大地に^収をさまる。故にひつぢおひいでて二度華果成就するなり。日蓮が法華經を弘むる功德は必ず道善房の身に歸すべし。あらたうと^貴たうと^貴。よき弟子をもつときんば師弟仏果にいたり、あしき弟子をたくはひぬれば師弟地獄に^墮をつといへり。師弟相違せばなに事も成すべからず。委しくは又々申すべく候。常にかたり^語あわせて、出離生死して同心に靈山浄土にてうなづき^語かたり給へ。經に云はく「衆に三毒あることを示し、又邪見の相を現ず。我が弟子是くの如く方便して衆生を度す」云云。前々申せし如く御心得あるべく候。^{あなかしこ}穴賢穴賢。

弘安元年卯月 日

日 蓮 花 押

浄 顯 房

義 浄 房